

# 予備調査結果（景観調査、排水先調査）

## 1. 景観調査

### 1.1 調査目的と内容

周辺道路や民家等から建設候補地の見え方を調査し、次期広域最終処分場が実際に建設された場合に景観への影響の変化を3Dモデルにより予測した。

表 1 景観調査の内容及び目的

| 項目   | 内容・目的                                    | 調査範囲・数量 |
|------|--|---------|
| 景観調査 | 周辺道路や民家等から最終処分場がどのように見えるか、3Dモデルを作成し確認した。 | 建設候補地全体 |

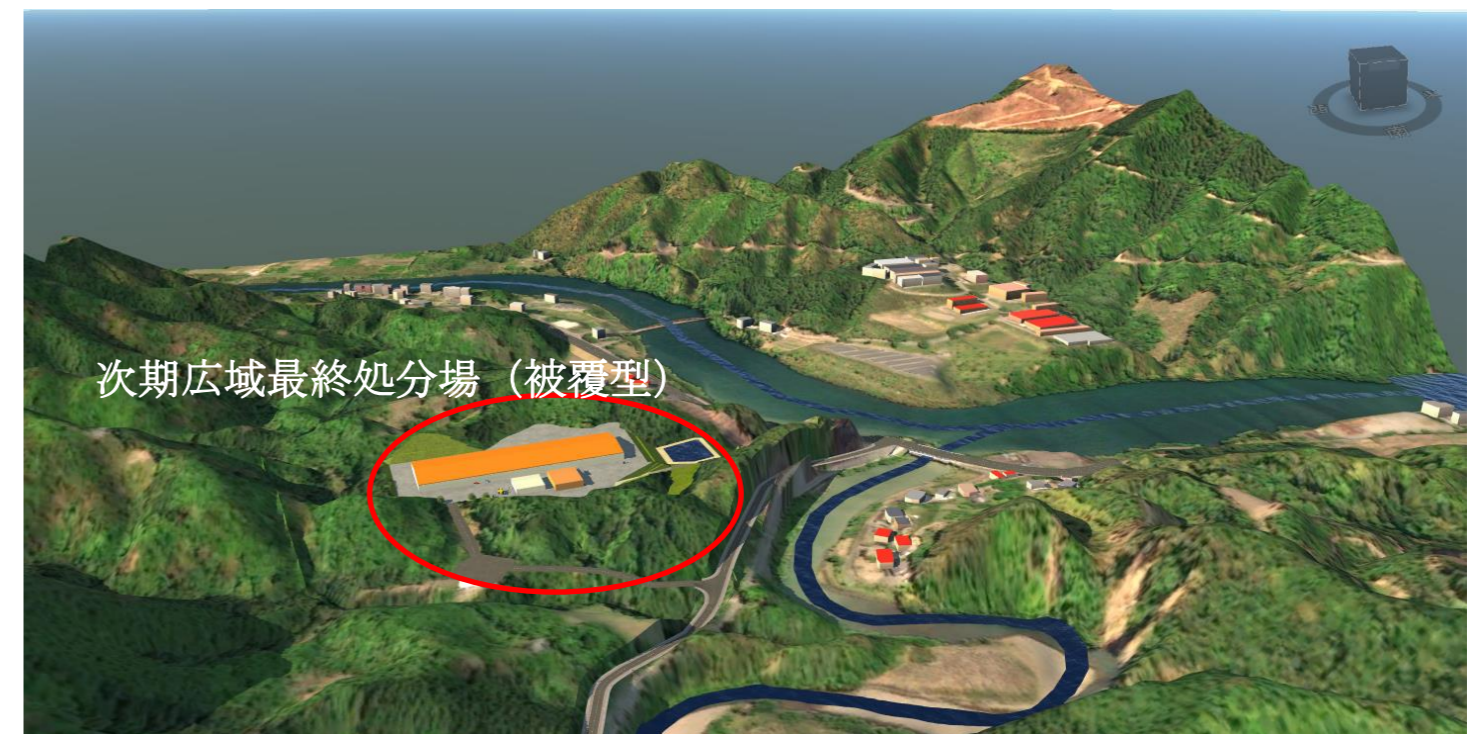
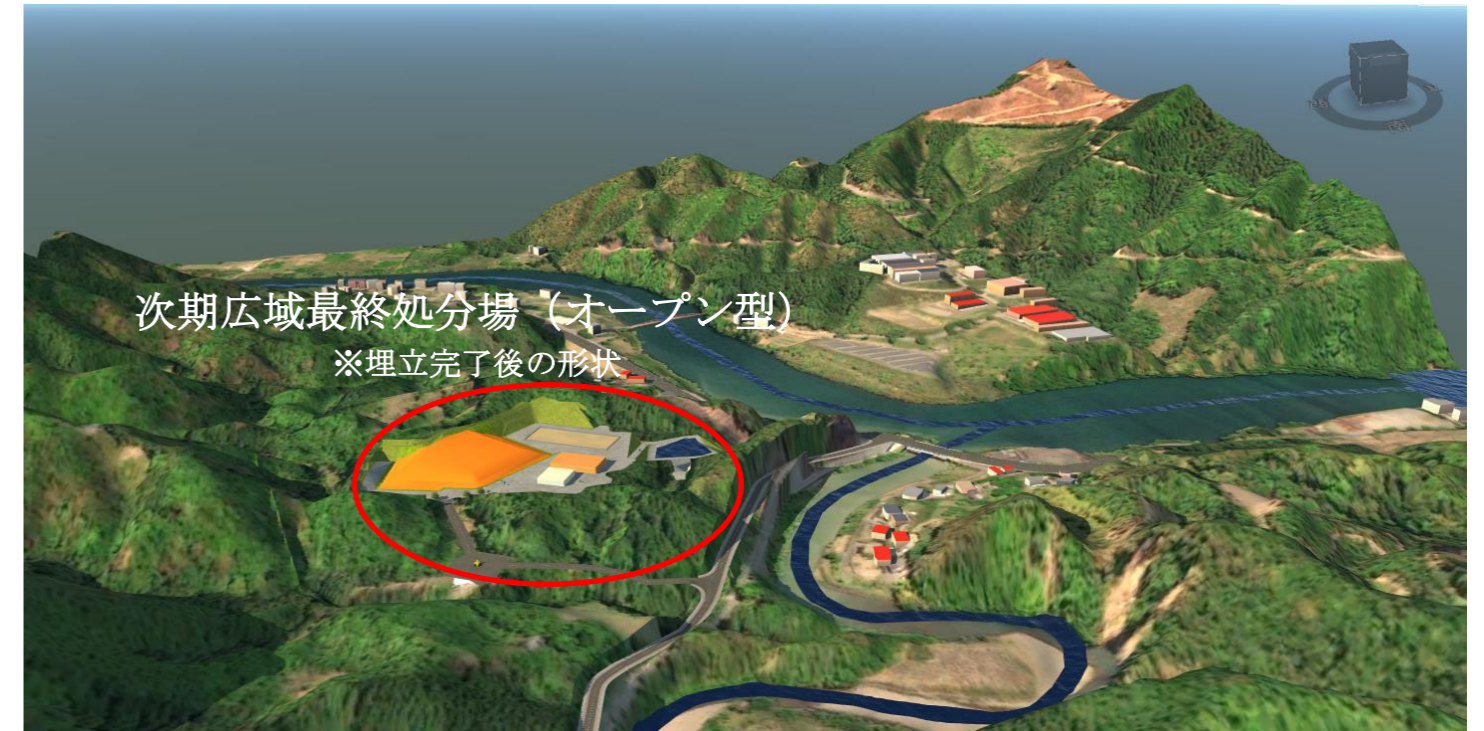


出典：「国土地理院地図」

図 1 景観調査位置図

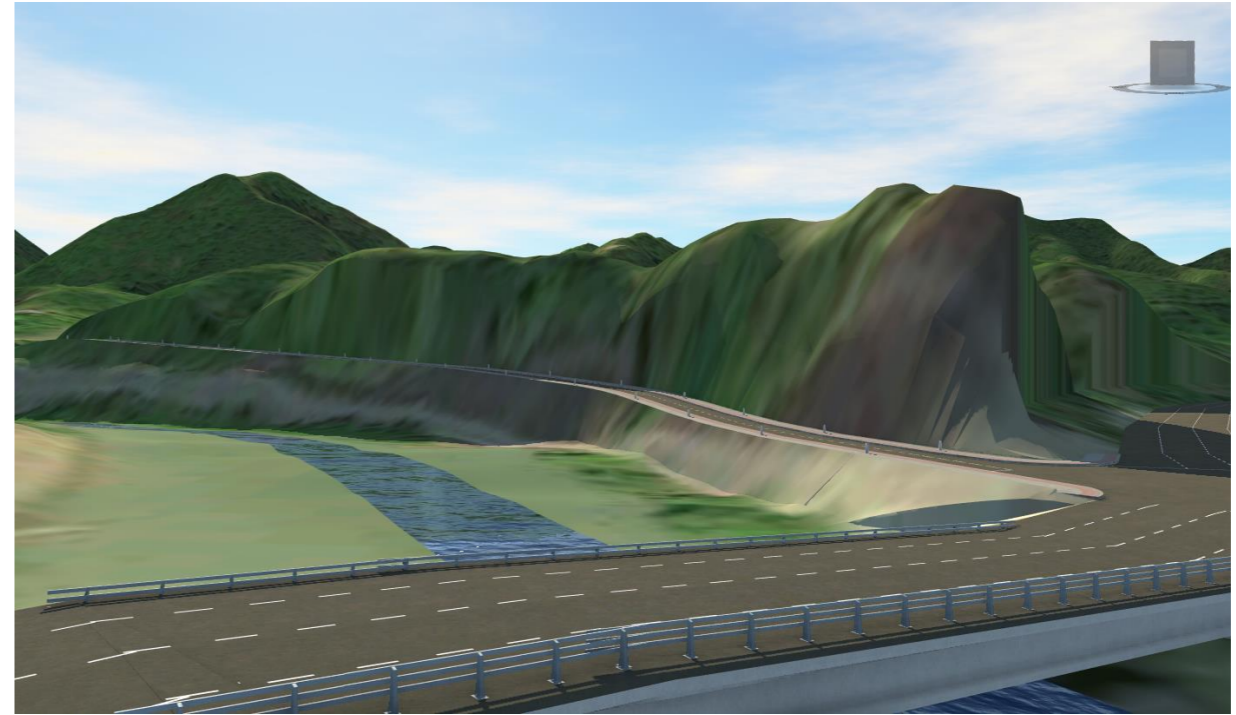
### 1.2 調査結果

測量結果及び施設配置図を基に3Dモデルを作成した。3Dモデルを用いることにより周囲からの施設景観を示す。

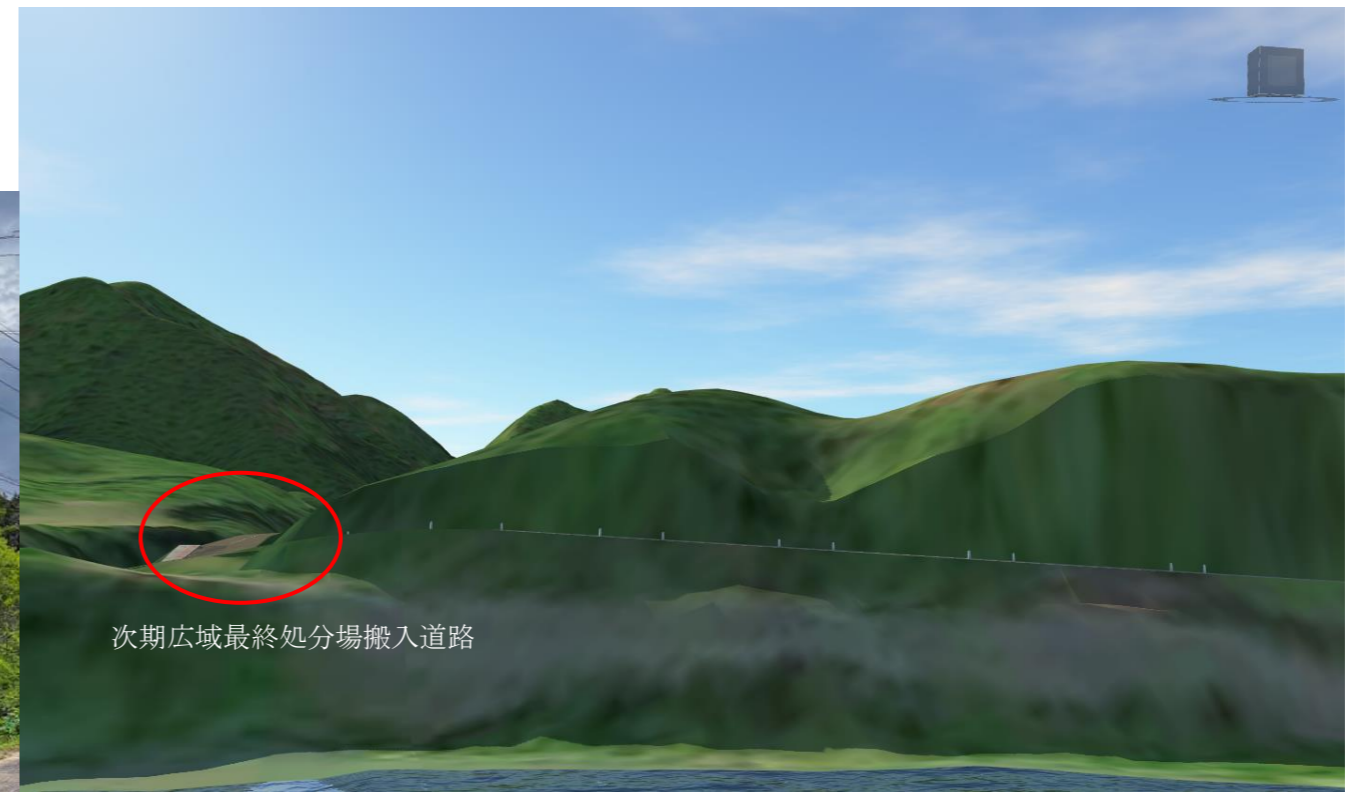


※表現上わかりやすいように埋立地をオレンジ色にしており、実際の色合いとは異なります。  
 (オープン型次期広域最終処分場は埋立前・埋立完了後は緑色、埋立中は土色。被覆型次期広域最終処分場は屋根の色(白色や緑色など))

図 2 次期広域最終処分場 3Dモデル (上：オープン型次期広域最終処分場、下：被覆型次期広域最終処分場)



地点①小川吐橋から建設候補地（左：現状、右：次期広域最終処分場整備後 3D モデル）



地点②田代川対岸から建設候補地（左：現状、右：次期広域最終処分場整備後 3D モデル）

図 3 3D モデルによる景観図(1)



地点③町道から建設候補地（左：現状、右：次期広域最終処分場整備後 3D モデル）



地点④国道 327 号から建設候補地（左：現状、右：次期広域最終処分場整備後 3D モデル）

図 4 3D モデルによる景観図(2)



次期広域最終処分場（オープン型）



次期広域最終処分場（被覆型）

※モデル範囲の設定により、山の見え方が異なる。

地点⑤耳川対岸から建設候補地（左：現状、右：次期広域最終処分場整備後 3D モデル）

図 5 3D モデルによる景観図(3)

## 2. 排水先調査

### 2.1 調査目的と内容

次期広域最終処分場敷地内に降った雨水や浸出水処理水の排水先及び、豪雨対策としての防災調整池の規模について検討を行った。なお、具体的な排水計画は測量調査や気象調査の結果を基に立案する。

表 2 排水先調査の内容及び目的

| 項目    | 内容・目的   | 調査範囲・数量 |
|-------|---|---------|
| 排水先調査 | 測量調査や気象調査の結果を基に雨水や浸出水処理水の排水先を検討した。<br>防災調整池の規模について検討した。 | 下流河川・水路 |

### 2.2 調査結果

#### (1) 道路横断水路について

建設候補地の流域は、耳川に流れる北側のエリアと田代川へ流れる南側のエリアに大別される。それぞれのエリアと河川の間にはそれぞれ国道 327 号と町道が存在している。それぞれの道路を横断するため、北側エリアはヒューム管、南側エリアはボックスカルバート水路が埋設されている。それぞれの水路の規模を以下に示す。

- 北側エリア：ヒューム管（円形の鉄筋コンクリート管）φ1500
- 南側エリア：【入口】ボックスカルバート水路（矩形の鉄筋コンクリート水路）B1200×H2500  
【出口】隧道 B1200×H2000



図 6 道路横断水路、北側エリア・ヒューム管φ1500（左：建設候補地側入口、右：耳川側出口）



図 7 道路横断水路、南側エリア（左：隧道内部、右：田代川側出口隧道）

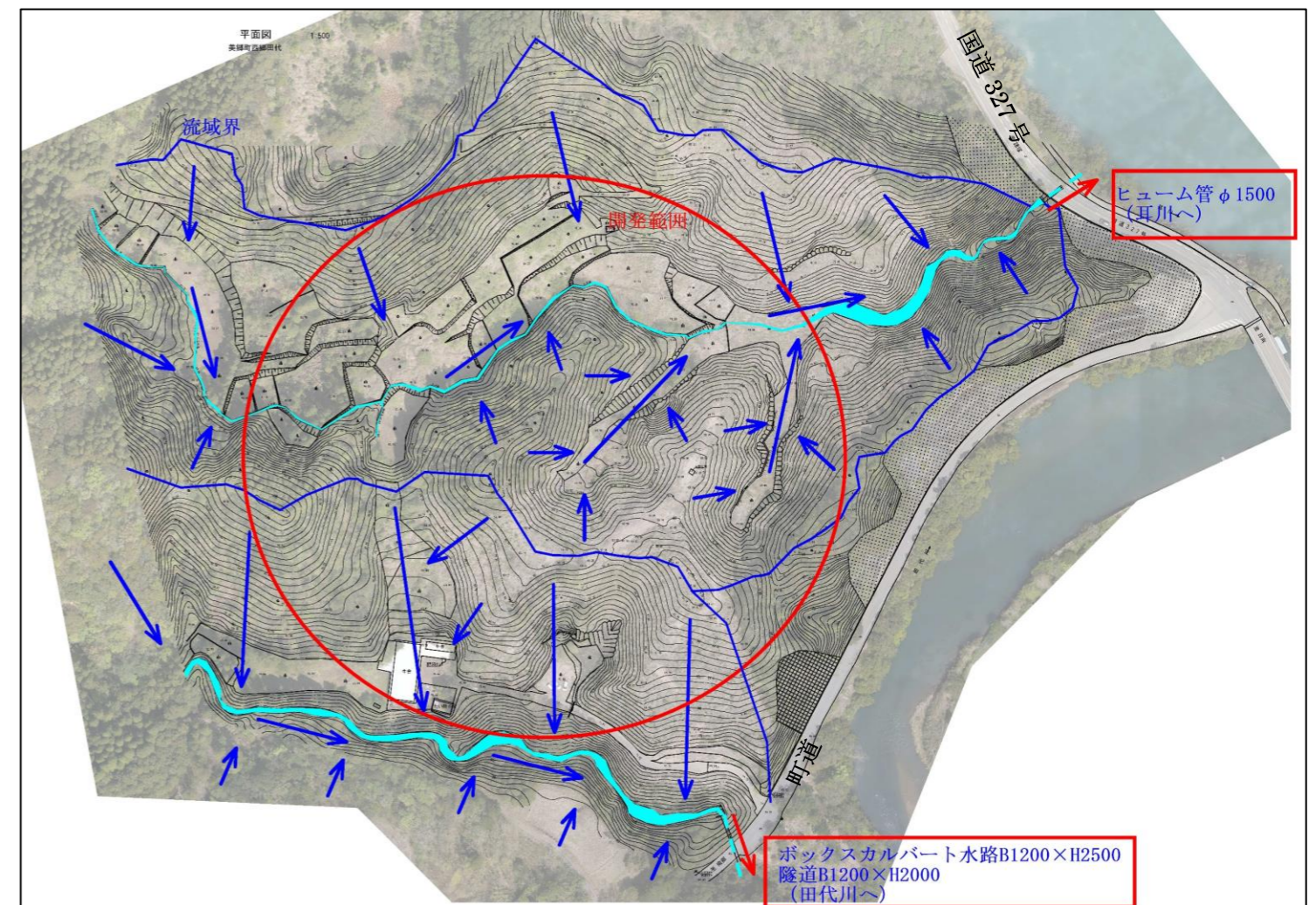


図 8 建設候補地流域図

(2) 道路横断水路の流下能力について

次期広域最終処分整備に係る開発後において、各道路横断水路の流下能力が不足しないか検証を行った。水路の検討は「開発許可制度の手引（令和5年3月改訂）宮崎県国土整備部建築住宅課」に準拠し、水路に流れる流量は合理式、水路の流下能力はマンシング式を用いた。道路横断水路の流域図を図9に示す。

検証を行った結果、流量に対して各水路は**十分な流下能力を有しており、開発後も雨水及び処理水を下流河川に排水可能**であることを確認した。検証結果を表3に示す。

また、**処理水は**、浸出水処理施設の位置を考慮し、流下能力により余裕がある北側にあるヒューム管へ排水する計画とする。水路の入口において、落ち葉や流木が詰まると雨水の排水を阻害するため、水路の適切な管理が必要となる。

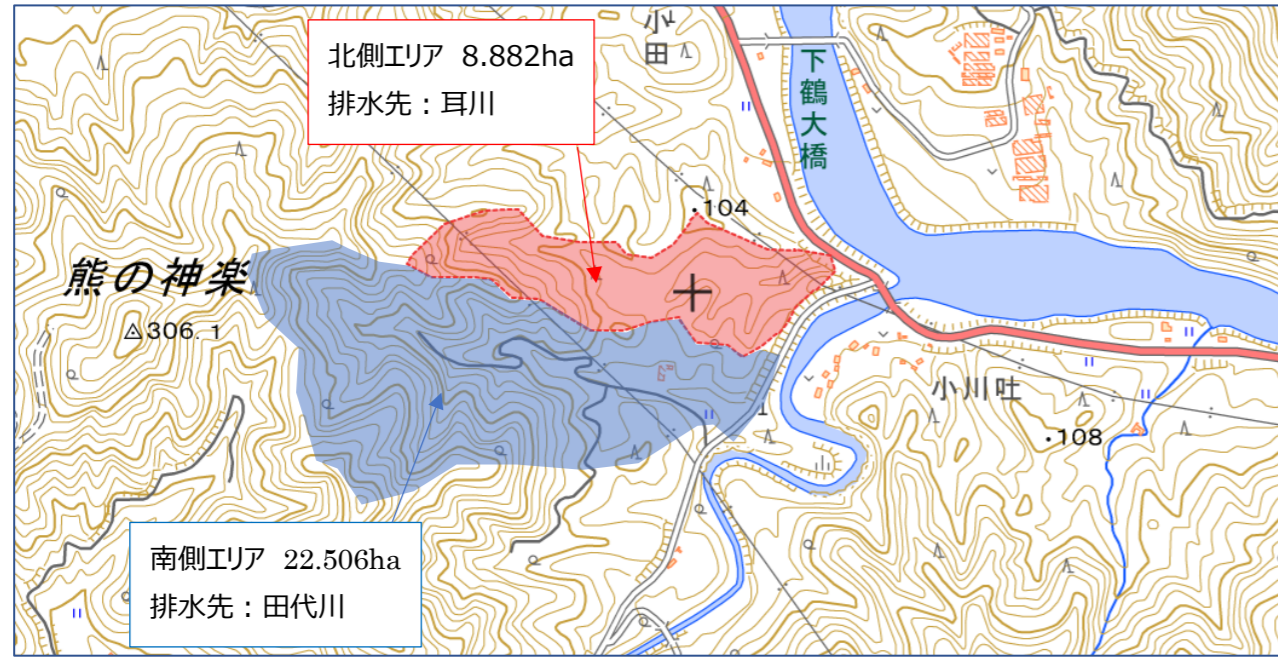


図9 道路横断水路の流域図 (8.882ha)

表3 北側及び南側横断水路調査結果

| エリア              | 北側   | 南側   |   | 備考  |
|------------------|--|--|---|---|
| 水路の種類            | ヒューム管<br><br>出典：「総合カタログヒューム管 全国ヒューム管協会」 | ボックスカルバート<br><br>出典：「全国ボックスカルバート協会HPより」 | 隧道<br><br>現地写真 |   |
| 水路規模             | φ1500  | B1200×H2500  | B1200×H2000   |   |
| 排水先              | 耳川   | 田代川  |   |   |
| 水路勾配             | 約10%   | 約3%  |   | 調査結果より  |
| 流域面積             | 8.9ha  | 22.5ha   |   |   |
| ①設計流量            | 2.839 m <sup>3</sup> /sec  | 6.075 m <sup>3</sup> /sec  |   | 次期広域最終処分場整備後想定<br>10年確立降雨強度:160.5mm/hr  |
| ②処理水量            | 0.002 m <sup>3</sup> /sec  | -  |   | 処理水量が多いオープン型処分場の処理水量である<br>200m <sup>3</sup> /日(=0.0023m <sup>3</sup> /sec)にて検証 |
| ③流下能力            | 21.847 m <sup>3</sup> /sec   | 19.109 m <sup>3</sup> /sec   | 7.649 m <sup>3</sup> /sec   |   |
| ④安全率             | 7.69   | 3.15   | 1.26  | 安全率1.0未満の場合、水路の改修が必要(=③÷(①+②))  |
| (参考)<br>流下可能降雨強度 | 1,230 mm/hr  | 507 mm/hr  | 202 mm/hr   |   |

(3) 防災調整池について

宮崎県における防災調整池の設置基準は開発面積が1.0ha以上、かつ、放流河川と法河川（建設候補地の場合、耳川、または田代川）との合流地点から下流2kmの区間において河川改修が必要な狭窄部がある場合となる。次期広域最終処分場の整備には約5haの開発（造成）が必要であるため、前者の条件は該当している。後者の条件については、合流地点が耳川の場合、下流2kmは大内原ダム内にあたり、狭窄部はないと考えられる。そのため、宮崎県の基準上は防災調整池が不要であると考えられる。また、耳川へ排水するヒューム管は宮崎県における200年確率降雨強度：218.92mm/hr以上の雨に対しても流下の可能な断面を有しており、次期広域最終処分場の整備による水路断面の不足は生じない。

しかし、大雨時や工事中は雨水だけでなく、土砂等も流れ出ること考えられるため、開発前に対して開発後増加した水量や土砂を防災調整池において調整する計画とする。

- 開発前に対して開発後増加する水量を、防災調整池を整備し、調整する。
- 防災調整池の容量は約2,700m<sup>3</sup>（宮崎県と協議を行い、詳細を決定する。）

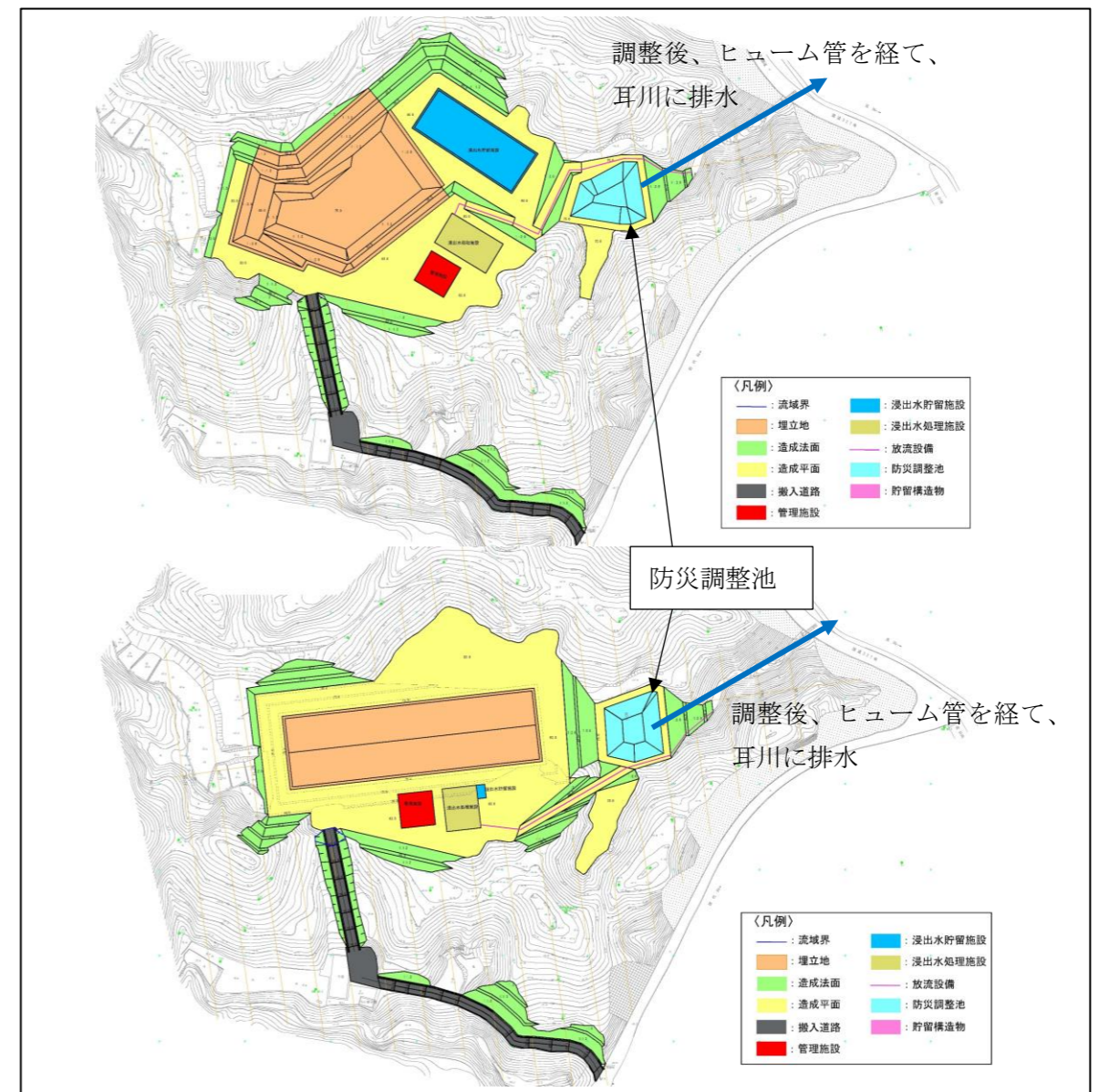


図10 防災調整池の配置